

# 地域の危険度マップとは

## ■地域の危険度マップ

地域の危険度マップは、地震による建築物(木造)被害を、その被害の程度に応じてランク別けた上で、地図に表したものです。具体的には、「揺れやすさマップ」で示した強さの揺れとなった場合に、地盤の液状化(※1)の影響を含めて、全壊(※2)程度の被害を受けると想定される建築物(木造)の割合を、「危険度」としています。一般に同じ震度でも、古い建物(特に昭和56年以前に建てられた建物)は、被害を受けやすい傾向があります。そのため、古い建物が多い地区では危険度が高くなっていることがあります。

## ○地震による死亡・ケガの原因は何？

阪神大震災での死者のうちの約8割は地震直後の家具、建物による圧死といわれています。

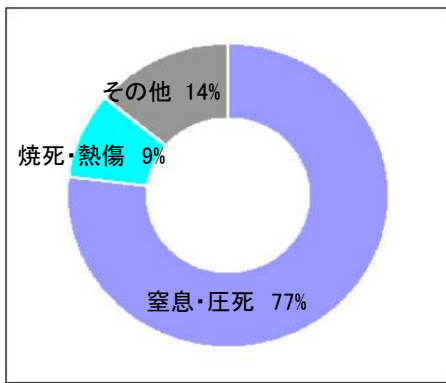
○皆さんの生命・財産を守るためには、住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。



地震によって、全壊した建物

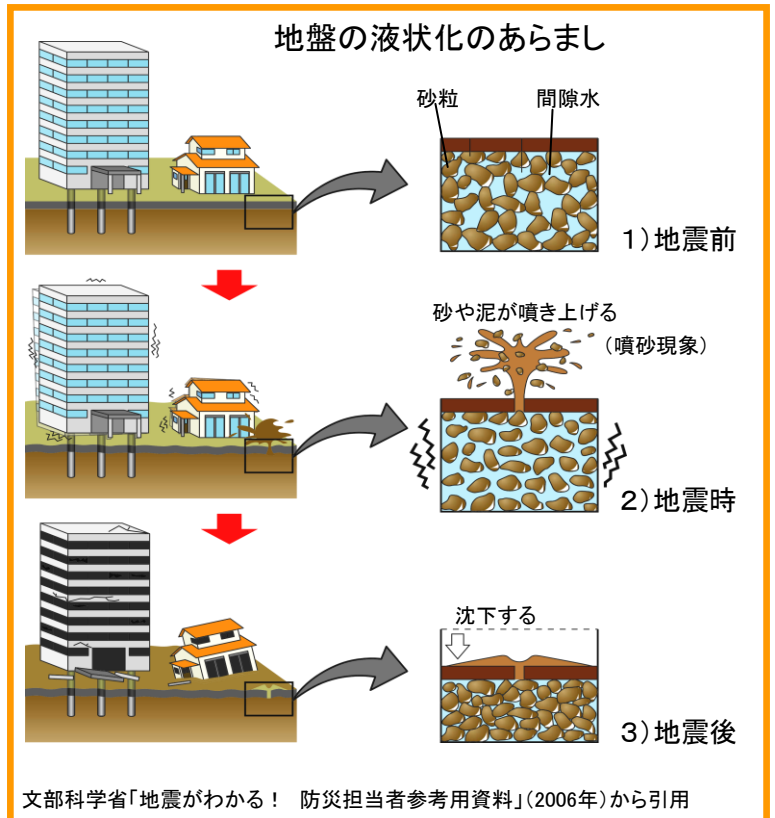
### ○阪神・淡路大震災の死亡原因

出典：「阪神・淡路大震災調査報告総集編」（阪神・淡路大震災調査報告編集委員会，2000）ほか



### ※1 地盤の「液状化」とは(右の図)

水分が多く含まれている地盤において、強い地震の揺れにより地中の土の粒の安定が崩れ、地盤が泥水のような状態になることを「液状化」といいます。低地や埋立地などで起こりやすいとされています。場合によっては、泥水が地表に噴き出たりします。地盤の液状化が起こると、地盤の沈下、地中のマンホールの浮き上がり、建築物の傾き・倒壊などの被害が発生することがあります。



### 全壊



住宅の全体、もしくは一部の階が全て倒壊している。



外壁や柱の傾斜が1/20以上である。

居住のための基本的な機能を失った状態を指します。

### 半壊



居住のための基本的な機能の一部を失った状態を指します。

### 一部被害



壁面の亀裂が生じている。外装に若干の剥離がある等状態を指します。

### 無被害



被害が生じていない状態を指します。

### ※2 「全壊」とは？(左の図)

「全壊」とは、台風や地震などの自然災害による建物の被害の程度の中でも、もっとも大きく被害を受けた状態を指します。具体的には平成13年6月に国によって定められた「災害の被害認定基準」の中で「住居がその居住のための基本的機能を喪失したものと定義されています。